



TOHOKU BUNKA GAKUEN UNIVERSITY

東北文化学園大学

きらり

KIRARI

TBG 同窓会報

TBG Alumni Association News

vol.
5

[2011.10.01]

Contents

学園を振り返る	2
新学長・学生部長就任挨拶	3
大学の震災復興支援活動	3
平成22年度事業報告・決算報告	4
平成23年度事業計画・収支予算書	4
歴代の学長より同窓生の皆様へ	5
同窓会新役員の皆様	5
活躍する卒業生	6,7
平成23年3月卒各賞受賞者発表	7
ホームカミングデーへのご招待	8
あとがきにかえて	8

学園を振り返る

～震災を乗り越えて～

― 午後2時46分、大地震発生 ―

数分間に及び震度6強の揺れの後、学生・教職員ら約500人が、避難場所である5号館前の広場に集まりました。当日は、長野和夫総合政策学部教授の最終講義が予定されていたため、学園には卒業生や関係者も多く来ていました。

― 停電、帰宅困難 ―

停電になり、携帯電話は不通。幸い、怪我人や火災などの被害はなかったものの、強い余震が何度も繰り返されました。5号館には緊急災害対策本部が立ち上げられ、不安や家族への心配がますます膨らむ中、あたりが薄暗くなり始めると大粒の雪が降り始めました。その夜、公共交通機関の停止による帰宅困難な学生と教職員ら約130人がキャンパスに宿泊しました。

― 学生の無事を祈り… ―

翌12日、情報が刻々と入るようになり、津波による沿岸部の甚大な被害状況や交通の大打撃が判明していきました。依然として余震も続くため、学内は対策本部のある5号館を除き立ち入り禁止とされ、各教職員は、学生の安否確認を最優先に全力を挙げて取り組みました。

― 電気設備、サーバーの損傷 ―

15日、キャンパスに電気が通るようになり各館の機能が戻りつつありましたが、大学事務局のある1号館は、受変電設備の損傷による停電が続き、更にネットワーク・サーバーの損傷も見つかったことで、ホームページ及びメールによる情報発信ができない状態が4月末まで続きました。

― 大学復旧 ―

授業開始に向けた教職員の急ピッチの作業が進み、晴れて5月8日、新入生の入学式を迎えることができました。そして9日からは学生の授業を始める事ができました。

～学校法人東北文化学園大学「東日本大震災対応報告書」より一部抜粋～



今回の震災により、医療福祉学部保健福祉学科の学生1人が帰省先の石巻で津波に呑み込まれ命を落とされた他、学生の保護者7人が亡くなりました。また、大学生の300世帯を超える家屋に被害を受けたことがわかっています。亡くなられた方々へ心よりご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

法人では、大震災に伴う復興を支援するため、「復興支援会議」が設置されました。今後複数年間に渡り、「学生生活支援」、「科学・文化芸術支援」等に継続して取り組まれます。

このほか、震災時の大学の地域支援活動として…

「東北文化学園大学の災害時非常用給水活動」

東北文化学園大学では平成20年より、近隣住民の方々への支援を模索するため、専門家による地域支援検討委員会を立ち上げ、検討を重ねていました。その中で、科学技術学部の岡田誠之教授、須藤諭教授による災害時の断水に備えた『災害用給水装置』は、この度の大地震発生の翌日3月12日から、7日間、延べ約4,000人の地域住民の方々へ、水を提供するという役割を果たしました。



『輝ける者基金』を宜しくお願い致します

まずは、この度の東日本大震災で被災された皆様に心からお見舞いを申し上げ、一日でも早い復旧・復興を心よりお祈りいたします。被災された会員の皆様はもちろん、本会にも多大な影響があった震災でしたが、復興が進む現在はいくつ活動再開することが出来ました。会員の皆様におかれましては、『輝ける者基金』をご存知でしょうか。この基金は5月より大学で設立された基金で寄附という形で母校を支援出来るものです。本会にはまだこのような支援を行える基盤が残念ながらありませんが、今回の震災に関して何らかの支援策を現在模索しております。大学への皆様の温かいご支援を、よろしくお願い致します。

東北文化学園大学同窓会会長 堀江 裕宗

『輝ける者基金』は、被災学生の学費減免措置、生活支援のための緊急奨学金、施設設備の復旧工事、教育・研究活動の復旧活動を目的としています。お問い合わせは、法人事務局総務部企画調整課までお願いします。●TEL:022-233-3330 ●FAX: 022-233-9875 ●Email : kikaku.tbgu@gmail.com

新学長・学生部長就任挨拶

学長(同窓会顧問) 土屋 滋



東北文化学園大学は、今年で開学13年目にあたり、9期4,600名の卒業生を社会に送り出しています。同窓会報を通してみなさんの働いている姿に触れると、とても心強い気持ちになります。

今年は3月11日に東日本大震災がありました。悲しいことですが、私たちの大学でも学生が1名犠牲になりました。同窓会のみなさんにおかれましては、被害に遭われた方が多数おられるのではないのでしょうか。

私たちは、最も被害の大きかった宮城県に居を構える大学として、大震災からの復興に何らかの関わりを持つべきだと考えています。現在、震災復興に向けた研究テーマを学内に広く募っており、その成果は10月23日の学園祭で供覧されます。同窓の方々の暖かいご批判をお待ちしております。

私たちの大学は若く、これから同窓生、在校生、教職員が一体となって「輝ける者」の歴史を創り上げていかなければなりません。共に手を携え、歩んで行こうではありませんか。

学生部長(同窓会監事) 吉水 弘行(総合政策学部教授)



本学は今新しい大きなうねりの中にあります。開学12年、再生7年を節目として、医療福祉学部の新設された看護学科では第一期戴帽式を終え、大学院も昨年完成年度を迎えております。高度な医学・技術知識と判断力を持つナースプラクティショナー養成も新たに始まりました。これは異なった3分野を学部にもつ本学ならではの新しい取り組みといえます。総合政策学部でも、現在の社会情勢に適合した3コース制が始まっております。

全学一丸となつての震災復興の支援策が検討される中で、6月にはいち早く「復興支援フォーラム」も開催され、来年に向けて「第九」コンサート企画など、大学の名に恥じない文化的な催しも予定されています。これらの取り組みが大きな波紋を描くためにも、同窓会の皆様の一層のご理解とご支援をお願い致します。

大学の震災復興支援活動

3月11日に起きた東日本大震災は東北に今も大きな爪痕を残しています。今後長年に渡る復興活動を余儀なくされる中、6月19日、大学が「復興支援フォーラム」を緊急開催しました。学者や専門家による講義の後に行われたパネルディスカッションでは、第6期保健福祉学科卒業生で、JR東日本にお勤めの齊藤誠人さんが、当大学教授や河北新報社の論説委員長らの面々と共に、震災体験や就業先での震災対策、また復興への想い等について発表なさいました。齊藤さんの、今後の社会のあり方や若者の未来に対する強い思いは、聴講していた多くの方々の心に響くものでした。



『震災復興フォーラムを終えて』

平成20年3月／大学・医療福祉学部 保健福祉学科 精神保健福祉専攻卒

齊藤 誠人

東日本旅客鉄道株式会社 郡山運輸区車掌



これまでの便利な社会に生きる代償として、若者が失ったものは2つあります。「人のつながり」と「考える力」です。しかし皮肉にも、今回の震災がその重要性を気づかせました。それが「私よりも他の人へ」という数々の行動や、「ボランティア活動」として表れたのではないのでしょうか。「考えなくても生きていける社会」から、「自ら考えて行動を起こす若者」を生みだしました。今後は、これら高い意識を風化させず、実践し続けることが課題になると思います。

また復興については、まずはライフラインの復旧など現実的な問題の解決が最優先です。次の段階としては、その地で、その地に住む人々が、自発的に経済を潤していく視点が重要になります。

そのためには、とりわけ若い世代が住みたくするような街づくりをしていく。教育や医療、雇用など、あらゆる面で大胆な改革が必要となるでしょう。

加えて現在は平均寿命だけでなく、介護を必要としない健康寿命も大きく延びています。こういった現状を踏まえ、人生の先輩方、中高年層にもあらゆる面でお力添えを頂く。つまりは若い力主導で、世代間が連携した街づくりをすることが理想です。



私は今回の震災を通じ、鉄道が担うインフラとしての役割を再認識しました。今の私にできる最大の務めは、『日常を守り続けること』です。日常を守り続けるといっても、人間が生活を営む上で、絶対に安全、絶対に安心という保証はありませんし、思いや感情だけで守れるほど容易いものでもありません。

しかし、鉄道を担う者として、お客さまの命をお預かりしている以上、私は万が一の時、「想定外」という言葉で片付けたくありません。

まだまだ未熟な私ですが、今後とも、お客さまにより安全に、安心してご利用頂けるよう粉骨砕身の精神で研鑽を積んでいきます。それこそが、生かされた者としての責任だと思うのです。

平成22年度 東北文化学園大学同窓会事業報告

平成22年度同窓会会計及び会務について、以下のとおりご報告いたします。
再開2年目を迎えた平成22年度の同窓会活動は、新たに公式Webサイトの立ち上げや、ホームカミングデー、地区同窓会の開催などを行い、活動を更に拡大することができました。

1.機関誌の発刊、ホームページ等の管理運営

- (1)同窓会報発行(平成22年6月、平成23年2月)
(2)公式Webサイト管理運営

2.講演会、懇談会の開催

- (1)地区同窓会の開催(9月、10月)
(2)保護者懇談会支援 会員による講演(9月、10月)

3.その他本会の目的を達成するために必要な事業

- (1)会費徴収業務
(2)会員サービス業務
入学生向けCD制作・配付、卒業生向け記念品制作・配付
(3)同窓会公式Webサイト開設(8月)
(4)ホームカミングデー開催(10月)
(5)大学広報誌との連携
(6)後輩の就職支援
(7)広報宣伝(広告掲載)

4.会議及び監査

- (1)理事会
(5月、9月、10月、12月、2月)
(2)総会(10月)
(3)会計監査



平成22年10月24日 同窓会総会

平成23年度 東北文化学園大学同窓会事業計画

本会理事会にて検討されました、平成23年度事業計画及び収支予算を以下のとおりご報告いたします。

東北文化学園大学同窓会における中期的重点目標

1. 同窓会の財政基盤の確立
2. 同窓会の存在と活動を周知するための広報活動の強化
3. 同窓会会員のニーズに沿った同窓会活動の強化
4. 大学、保護者、と同窓会との「三位一体」による絆の強化

1.機関誌の発刊、ホームページ等の管理運営

- (1)同窓会報発行(平成23年10月発行)
(2)公式Webサイト管理運営

2.講演会、懇談会などの開催

- (1)他団体主催会合支援

3.その他本会の目的を達成するために必要な事業

- (1)会費徴収業務
平成23年4月 平成23年度入学生(13期生)対象
平成24年1月～ 平成24年3月卒業生(10期生)対象
(2)会員サービス業務
入学生向け学園歌CD制作・配付、卒業生向け記念品制作・配付
(3)ホームカミングデー開催
平成23年10月 文化学園祭への出席
(4)大学広報誌との連携
(5)後輩の就職支援
(6)広報宣伝(広告掲載)

4.会議及び監査

- (1)理事会(年4回)
平成23年 6月:平成22年度決算報告、平成23年度事業計画・予算、新幹事承認
平成23年 8月:同窓会報、ホームカミングデー
平成23年 12月:記念品制作、卒業生へ同窓会案内企画(会費納入案内)
平成24年 2月:次年度事業計画、次年度予算
(2)代表者会
平成23年 10月:平成23年度半期報告、新役員の選任報告
(3)会計監査(外部監査)
平成23年 5月:平成22年度会計監査
平成24年 :平成23年度会計監査

※今年度定期総会の開催はありません(次回定期総会:平成25年度)

●平成22年度 東北文化学園大学同窓会 決算報告

第8期(H22.4.1～H23.3.31)

貸借対照表

分類	科目	金額
資産の部	A 流動資産	9,564,677
	1 入会金収入	9,533,819
	2 貯蔵品	30,858
		9,564,677

収支計算書

分類	科目	金額
収入の部	A 同窓会費	3,105,000
	1 入会金収入	2,405,000
	2 終身会費収入	700,000
	B 寄付金	220,000
	1 寄付金収入	220,000
	C その他の収入	2,974
	1 預金利息収入	2,066
	2 その他の収入	908
	D 前期繰越金	11,692,584
	収入合計	15,020,558

分類	科目	金額
負債・繰越の部	A 流動負債	2,192,255
	1 未払金	147,255
	2 前受金(預り金)	2,045,000
	B 繰越金	7,372,422
	1 前期繰越金	11,692,584
	2 当年度繰越金	-4,320,162
	F 次年度繰越金	9,564,677
	C 事業費	4,095,038
	1 会報作成費	1,567,271
	2 懇談会開催費	60,990

分類	科目	金額	(予算)
支出の部	A 事業費	4,095,038	4,189,000
	1 会報作成費	1,567,271	1,568,000
	2 懇談会開催費	60,990	61,000
	3 その他費用	30,000	30,000
	4 会費徴収事業費	101,966	109,000
	5 会員サービス事業費	243,288	329,000
	6 ITによる可視化事業費	1,995,000	1,995,000
	7 文化学園祭出展事業費	96,523	97,000
	B 会議費	498,501	506,000
	1 通信費(会議費)	256,720	258,000

●平成23年度 東北文化学園大学同窓会 収支予算書

第9期(H23.4.1～H24.3.31)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
A 会費収入	4,175,000	3,100,000	1,075,000	
1 入会金	3,175,000	2,400,000	775,000	平成23年4月入学新入生 平成23年3月卒業生入会金 (入学時未徴収のため)
2 終身会費	1,000,000	700,000	300,000	平成23年3月卒業生入会金
B 寄付金収入	0	220,000	-220,000	
C その他の収入	2,000	2,908	-908	
1 預金利息	2,000	2,000	0	仙台銀行中山支店普通預金利息
2 その他	0	908	-908	
当期収入計	4,177,000	3,322,908	854,092	
D 前年度繰越金	7,372,422	11,692,584	-4,320,162	
収入計	11,549,422	15,015,492	-3,466,070	

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
A 事業費支出	1,914,250	4,189,000	-2,274,750	
1 会報作成費	800,000	1,568,000	-768,000	年一回発行(平成23年10月)
2 Webサイト管理運営費	434,150	0	434,150	サイト保守契約料
3 会員名簿整備及び管理費	34,000	0	34,000	正会員住所登録カード制作費
4 懇談会開催費	0	61,000	-61,000	地区同窓会の今年度開催は見合わせ
5 ホームカミングデイ事業費	200,000	97,000	103,000	文化学園祭出展企画
6 会費徴収事業費	131,000	109,000	22,000	(入学生向け)入会案内・振込用紙等 (卒業生向け)正会員案内・振込用紙等
7 会員サービス事業費	285,100	329,000	-43,900	(入学生向け)学園歌CD制作費 (卒業生向け)正会員情報登録カード 記念品制作
8 広告宣伝費	30,000	30,000	0	
9 IT活用による可視化事業費	0	1,995,000	-1,995,000	前年度事業終結のため今年度なし
B 会議費支出	661,100	506,000	155,100	
1 通信費	29,000	258,000	-229,000	資料郵送費
2 会場費	0	38,000	-38,000	学内開催の為なし
3 交通費	410,000	204,000	206,000	理事会構成員出席交通費
4 雑費	10,000	6,000	4,000	会議飲み物代等
5 監査費	212,100	0	212,100	東陽監査法人(22年度決算分)
C 事務費支出	2,253,000	3,171,000	-918,000	
1 消耗品費	12,000	19,000	-7,000	事務局ファイル、ICレコーダー他
2 通信・運搬費	7,000	7,000	0	切手代他
3 印刷費	0	13,000	-13,000	
4 旅費・交通費	5,000	3,000	2,000	学外打合せの際交通費
5 人材派遣費	2,200,000	3,098,000	-898,000	平日週4日勤務。 10:00～16:30(5h45m) ウィルス対策ソフト購入費
6 雑費	5,000	10,000	-5,000	1件あたり840円、月平均2件。
7 振込手数料	21,000	21,000	0	PCモニター修理費
8 その他事務費	3,000	0	3,000	
D その他支出	78,015	256,769	-178,754	
当期支出計	4,828,350	7,866,000	-3,037,650	
E 予備費	6,721,072	7,149,492	-428,420	
支出合計	11,549,422	15,015,492	-3,466,070	

～東北文化学園大学 歴代の学長より同窓生の皆様へ～



和は力なり:より良き東文大を

東北文化学園大学初代学長
毛利 平

未曾有の大災害に、先ずは同窓会会員の無事と此れからの益々の発展を御祈りいたします。

一期生の卒業を迎えて発足した東北文化学園大学同窓会は、科学技術学部の前身である短期大学の卒業同窓生1,007名を含め本年で総正会員数5,607名と聞いております。併しその発足翌年には、競争率も高く、定員を遥かに超える在校生を擁しながら大学そのものの存続をも危ぶまれた危機に遭遇したことは周知の如くであります。危機を乗り越えられたのは、小山理事長の救いの手によることはもちろんであります、それまでの短い間であったけれど、ゼロから始めた開学準備時代から皆で築上げた信頼と和の精神の賜物であろうと思っています。苦闘する私に当時の在校生、卒業生から送られた励ましや労りは今も鮮明に記憶に残っていますし、生涯忘れることは無いでしょう。

さて現在、一握りの長い歴史ある大学を除き何処の大学でも同様であります、学生確保は重要課題となっています。

そのような中で同窓諸兄姉の東文大への信頼と応援、それにもまして皆さんの社会での活躍が東文大の大きな後押しでありますので更なるご発展をお祈りいたします。

最後になりますが、私この6月30日をもちまして東文大を去りました。足掛け17年の永きにわたるご厚情有り難うございました。東文大、同窓会に対する想いはいつまでも変わりません。またいつの日かお会いしましょう。



東北文化学園の“輝ける者基金”

東北文化学園大学前学長
高坂 知節

同窓生の皆さん、お元気ですか? 東日本大震災から7カ月が過ぎようとしていますが、身の回りの状況はいかがでしょうか? 太平洋沿岸地域にお住まいの皆さんは、津波による甚大な被害に遭われたでしょうし、福島原発事故により地元を離れて不自由な避難生活を送っておられる方もあると思います。被災された同窓生の皆さんへ、心からのお見舞いを申し上げますとともに、このような時にこそお互いの力を結集して、艱難辛苦を乗り越え、これを克服して参りましょう。

私にとっての3月11日は、学長の任期があと20日を残すのみという時でした。関係する学会の理事会出席のため東京品川で被災しましたが、大阪から東京経由で仙台に向かう小山昭夫理事長の車に同乗させていただき、関越自動車道経由で新潟に向かい、山形県の小国町、南陽市を経由して天童温泉にまで辿り着き、ここで一泊して翌朝の午前9時に大学へ帰還することが出来ました。

学園では、直ちに緊急災害対策本部を立ち上げ、連日学生の安否確認作業が日夜を徹して行われました。不幸にも津波によりひとりの大学生が亡くなり、12名のご家族が逝去されましたが、大多数の学生や保護者の方が無事であることが判明し、何とか関係者全員の消息を把握することが出来ました。また、小山理事長のリーダーシップのもと、被災学生への経済支援特別措置が迅速に決定され、5月の連休前には、30万(全壊)、20万(半壊)、10万(一部損壊)の一時給付金が振り込まれましたし、多くの学生に学費の減免措置が実施されています。このような特別措置には、キャンパス内の損壊した建物や設備の修繕費用などを含めるとはば5億6千万円の支出(7月7日現在)が計上されています。

このような非常事態に、東北文化学園は内向きになることを避けて、積極的に地域貢献を行うことによりしております。6月19日には「今、若者たちと語ろう 東日本大震災の教訓」をテーマに復興支援フォーラムが江陽グランドホテルで行われ、学生や市民など約650名が参加しました。同窓生である、JR東日本の齊藤誠人さんが、緊急 パネルディスカッション「目指せ! 新生東北～あの日から明日へ～」のパネリストとして参加し、“被災した時の気持ちや経験を風化させないように、何時も心を新たに明日の東北再建のために力を合わせていこう”と訴えました。このような企画でも分かるように、本学園は、地域の皆さんを勇気づける企画として、今後も東北文化学園混声合唱団と東北大学交響楽団や仙台フィルハーモニーオーケストラによるベートーベンの第九シンフォニー演奏会などを計画しています。また、被災学生への義捐金の受け口として、“輝ける者基金”が設立されて、これまでに1千万円を越える浄財が寄せられています。同窓生の皆さんにおかれましては、母校の後輩たちへの思いを、この“輝ける者基金”を通して実現していただきたく、この機会に学園を代表してお願い申し上げます。

『輝ける者基金』のお問い合わせは、法人事務局総務部企画調整課までお願いします
●TEL: 022-233-3330 ●FAX: 022-233-9875 ●Email: kikaku.tbgu@gmail.com

平成23年3月卒
同窓会新役員の皆様

平成23年4月より3年間、東北文化学園大学同窓会活動を支える卒業生の皆様の代表、全16名の方々です。皆様、よろしくお願ひします。

理 事	保健福祉学科	保健福祉専攻	我妻 大史	幹 事	保健福祉学科 生活福祉専攻	大友 ゆかり
幹 事	リハビリテーション学科	理学療法専攻	大柄 亨	幹 事	総合政策学科	粕川 梓
幹 事	リハビリテーション学科	理学療法専攻	及川 真那	幹 事	コンピュータサイエンス学科	伊東 祐耶
幹 事	リハビリテーション学科	作業療法専攻	國分 陽介	幹 事	コンピュータサイエンス学科	佐山 祐亮
幹 事	リハビリテーション学科	作業療法専攻	猪股 愛美	幹 事	住環境デザイン学科	熊谷 卓也
幹 事	保健福祉学科	保健福祉専攻	佐藤 隆輔	幹 事	住環境デザイン学科	佐野 達也
幹 事	保健福祉学科	保健福祉専攻	遊佐 紗紀子	幹 事	住環境デザイン学科	草苅 一登
幹 事	保健福祉学科	生活福祉専攻	伊藤 慎悟	幹 事	住環境デザイン学科	武田 将矢

活躍する卒業生

ふたつの勇気と 笑顔を胸に…

平成17年3月／大学・総合政策学部 総合政策学科卒
ティースターフィールド 所属
手話シンガー 水戸 真奈美

2011年3月11日東日本大震災の時には、東京にいました。
都内でも大混乱の中、震源が宮城県であることを知りました。その後テレビに映る現実とは思えない
様子に涙が止まらず、家族、友人、先生方、学校の事が心配で眠れぬ夜を過ごしました。
私が通っていた総合政策学部は、幅広い分野で活躍できる人材育成を理念とする学部です。
私の4年間は、全てが新鮮で充実していました。そして自分自身の人生を考える貴重な時間でもあ
りました。
音楽は日常生活でいつも耳にする事が出来、人に元気や、感動、癒しを与える、魔法のようなすご
い力があると感じていました。自分を人の為に役立てたいと考えていた私は、自分の歌で人を幸せに
出来たらと考え始めました。



私は人前で話す事も苦手で引っ込み思案で自分の意見を言うことも出来ませんでした。しかし卒
業後、後悔したくない一心で両親を説得し勇気を出して上京しました。
東京生活が始まって、ティートックレコーズというレコード会社と契約。全ての歌詞に手話を付ける「手話シンガー」として活動していま
す。多くのことを学び、経験し、2010年4月に念願のCDデビューを果たすことが出来ました。
歌に手話を取り入れたのは、より多くの方々に聞いて欲しいという思いからです。「手話」は私自身の性格を変え、大切な人との出会い
をもたらし、私自身と人生を変えてくれたと言っても良いくらい大きなものとなりました。
今は手話を、すべての子供からお年寄りまで多くの皆さんにも楽しく自然に身につけることができるような活動をしています。
この震災後も南三陸町を中心に、微力ながらも支援活動をさせていただいていますが、自分の手話歌でたくさんの笑顔が見えるのが私
にとって一番幸せなことだと実感しています。
歌手としての成功への道のりはまだまだ険しいと思います。私は二つの勇気を学びました。「諦める勇気」と「諦めない勇気」です。障害
を持った方はその障害を受け入れ跳ね返すエネルギーがあります。私も成功を信じ諦めない勇気を持ち続けて頑張ろうと思っています。
今回の震災では、手話というキーワードから思いもよらない方々との出会いと感動がありました。頑張ることで求心力が生まれチャンスが
来る。皆さんと、それぞれの人生、諦めない事、挑戦する事、頑張る事、「成功・幸せ」へのプロセスを共有できたら嬉しいと思います。

学生生活で得た 今の自分にとっての大事なこと

平成15年3月／大学・総合政策学部 総合政策学科卒
仙台秋保温泉ホテルニュー水戸屋 勤務
古山 大樹

私が入学した年は大学が開校したその年、正に第1期生としてスタートさせていただきました。専攻していた学部は総合政策で、その中
でも観光業に興味があった私は、歓楽街や温泉街、世界遺産の街など、それぞれの主な特徴や問題点などを研究し学んで参りました。そ
して私が卒業論文として挑んだテーマ、それが「温泉街における街づくり対策について」でした。
無事秋保温泉ホテルニュー水戸屋の就職試験に合格した私は、就職して現在9年目になります。主な仕事内容は、玄関先に立ち、お
客様をお出迎えし、チェックイン作業を済ませ、お部屋までご案内する事、これが毎日の仕事です。なるべくスムーズに見栄え良く、お客様
をお通しするため、いろんな工夫や努力をしています。お客様の中にはお子様連れのご家族や会社の集まり、車イスの方や知的障害者の
方、また有名人がお忍びでいらっしゃったり、中には暴力団や過去にホテル内で重大な問題を起こしてしまった方などどうしても入館をお
断りしないといけないお客様もいらっしゃいます。そうしたお客様方をフロントロビー内で、
波風立てず、ゆったりとした空間を演出し、同時に素早くチェックイン作業を済ませることが
私たちの仕事です。
社会人としての心得、失敗しながらたくさん学ばせていただきました。しかし、学生生活
で得た物も社会の中で役に立ったと感じる事も多くあります。パソコンのスキルだったり、
英語での接客の場面もあります。また、学生時代の友達や先生方、バイトの仲間や上
司、人脈を大事にすると様々な場面で本当によかったと感じる事が今になってよくわかり
ます。私は今、ホテル内における会議パーティーの責任者で、家に帰れば二児のパパで
す。毎日忙しい日が続いていますが、友達や先生方からはがきやメールで連絡が届くこと
が、なによりも励みになっています。



日本復興の 力になれば…

平成19年3月／大学・科学技術学部 住環境デザイン学科卒
平成21年3月／大学院・健康社会システム研究科 生活環境情報専攻 前期修了
積水ハウス株式会社 勤務
篠塚 雅也

大学院を修了してから2年半、電車で片道2時間以上掛けて通学していたことを懐かしく
感じています。お陰様で今では電車に乗るのが嫌いになってしまいました。
中学時代に何気なく決めた『1級建築士になる』という目標に『更なる付加価値を』と、大
学・大学院では野崎研究室で室内空気質の研究に没頭しました。いつ思い出しても当時
は大変だったという印象しかありませんが…。
大学院修了後、積水ハウス株式会社に入社。いわき支店(福島県)に配属され、半年の
研修期間を終えた後、確認申請などの申請業務を担当しながら住宅設計のノウハウを学ん
できました。そして昨年、念願の1級建築士の資格を取得し、今年4月から設計担当として、
これまで7棟の住宅の設計に携わりました。
住宅の設計には、住宅設備、家具・家電、家相や風水に関する知識、施主の漠然とした
イメージを形にするプランニング能力などなど、実に幅広い知識・能力が求められます。打合せを行う度に様々な課題が見付かり、ひたすら
調べ、先輩社員や業者の方々に聴き回り、次々と壁にぶち当たっては解決策を模索する毎日です。
3月11日の『東日本大震災』。大学時代何度も利用していた仙台空港に津波が押し寄せる映像は悪夢としか言いようのない衝撃的な
光景でした。いわき市(福島県)も地震と津波により甚大な被害を受けました。原発の影響で避難を余儀なくされた時期もありましたが、地
震発生直後からオーナー様の安否確認や救援物資の配布など、社員総出で対応しました。そんな中、ツイッターに感謝の言葉がツイート
された時はうれしかったですね。
現在、当社に来店する方の多くは地震や津波で家を失い、様々な不安を抱えています。このような方々の不安を取り除き、『安全・安心』
な住まいの提供を通して、日本の復興に微力ながら貢献できれば、そんな思いで頑張っています。



平成23年3月卒業生 各賞受賞者発表

平成23年3月、学部生453名、大学院生5名の皆様が東北文化学園大学をご卒業され、新たに同窓会員となりました。
今年3月は大震災の影響により、卒業式とともに卒業生各賞受賞者の表彰式も執り行われませんでした。よってここに、学生時代に華やかな学業成
績を修めた学生へ贈られる「学長賞」、大学生活において際立った活躍をし、学友会の発展に大きく貢献した学生へ贈られる「輝ける者賞」を受賞され
た、19名の皆様をご紹介します。

◆学長賞【8名】

湯澤 洋紀さん(リハビリテーション学科 理学療法学専攻)
佐藤 麻未さん(リハビリテーション学科 作業療法学専攻)
齋藤 祐佳さん(保健福祉学科 保健福祉専攻)
東海林見帰さん(保健福祉学科 生活福祉専攻)
松川 諒太さん(保健福祉学科 精神保健福祉専攻)
大類 蘭さん(総合政策学科)
伊東 祐耶さん(コンピュータサイエンス学科)
熊谷 卓也さん(住環境デザイン学科)

◆輝ける者大賞【1名】

柏川 梓さん(総合政策学科)

◆輝ける者賞【10名】

大柄 亨さん(リハビリテーション学科 理学療法学専攻)
虎岩 辰弥さん(リハビリテーション学科 作業療法学専攻)
小川内 健さん(保健福祉学科 保健福祉専攻)
遊佐紗紀子さん(保健福祉学科 保健福祉専攻)
我妻 大史さん(保健福祉学科 保健福祉専攻)
渡邊 啓人さん(保健福祉学科 保健福祉専攻)
佐藤 隆輔さん(保健福祉学科 保健福祉専攻)
大友ゆかりさん(保健福祉学科 生活福祉専攻)
千歳翔太郎さん(総合政策学科)
下館 芽依さん(住環境デザイン学科)

『輝ける者大賞』受賞！

平成23年3月
大学・総合政策学部 総合政策学科卒
柏川 梓



私の所属していたゼミ担当の長野先生から「輝ける者大賞受賞おめでとう!」と電話が
来たときは、驚きと嬉しさのあまり叫んでしまいました(笑)大学生活で
はいろんなことに挑戦してみました。中でも女子大生で街を盛り上げる
ために作ったフリーマガジン「イケメン手帖」では、企画や営業、取材
や記事作りなどをすべて自分たちで行い初めてのこと
ばかりで大変でしたがすごく充実
した大学生活となりました。このよ
うな経験を社会に入った今、多方
面で活かし少しでも街が元気にな
るように頑張りたいです。



イケメン手帖

各賞受賞者の皆様、本当におめでとうございます。

10月23日(日)
ホームカミングデー
へのご招待



「同窓会名物ぺったん餅店 復興に願いを込めて」開店!

日増しに秋の深まりを感じるころとなりました。同窓会員の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか? この度10月23日(日)、文化学園祭が行われることとなりました。

同窓会では同日、同窓生の為のホームカミングデーを開催し、震災復興に願いを込めた餅つき大会を企画しております。つきたて餅は、おしるこ・手造り黒蜜&きなこ・ゴマ味・磯辺焼きの味付けで、皆様に無料試食として提供致します。(300名様分、12:30頃より試食提供を開始する予定です。なくなり次第終了となります。)

同窓生有志・同窓会役員らによる、熱い想いの詰まった出来たてのお餅を、懐かしの母校で味わいませんか? ご友人、ご家族をお誘い合わせの上、久しぶりの母校へ是非遊びに来てください。餅つき大会終了後の15:00~16:00、本部棟2階 第二会議室にて、同窓生皆様の為の懇親会を開催いたします。同窓会員同士の貴重な交流会ですので、ご来校の際には是非、足をお運びください。

※餅つきに参加していただける有志の方も募集中です。

※文化学園祭では、学生による「震災復興支援」の研究テーマ発表会、お笑い芸人によるライブ、その他様々なイベントが企画されています。

皆様の多数のお越しをお待ちしております。

ホームカミングデーについてのお問合せ ▶ [東北文化学園大学同窓会事務局] alumni@office.tbgu.ac.jp ☎022-233-6194(担当:吉田)

《お願い》 住所変更をお知らせください

本会では、同窓会報を始めとする各種ご案内を会員の皆様へお送りしております。ご住所、お名前の変更があった場合には、本会へお知らせください。変更の情報は、同窓会公式WEBサイトから、もしくは郵送にてご連絡をお願い致します。

【問い合わせ先】

東北文化学園大学同窓会事務局
仙台市青葉区国見6丁目45-1
大学教務部学生課内
電話 022-233-6194

※お預かりした個人情報は同窓会活動のみに利用し、名簿の販売・頒布は行いません。

携帯サイトはこちら▶



同窓会費の納入について

本会は、会員の皆様からの会費により運営を行っております。入学時に入会金として5,000円、卒業時に終身会費10,000円の納入をお願いしております。まだ会費を納入いただけていない場合は、会費の納入をお願いいたします。

【会費振込先】

仙台銀行本店営業部
普通預金 4755741
トウホクブシ カ ガクエンダイガクドウソウカイ
東北文化学園大学同窓会

※お振込の際は、学籍番号とお名前を必ずご入力ください。学籍番号は同窓会報送付封筒に印字しております。※恐れ入りますが、振込手数料はご負担ください。

同窓会WEBサイトをご活用ください

2010年より、同窓会公式WEBサイトでは、同窓生に関わる情報や学園のイベントなどを皆様にお届けしています。

また、会員同士が自由に情報を発信し交流ができる、「同窓生の輪」というコンテンツもあります。

短大、大学の卒業生が末永く、縦・横の繋がりを維持し支え合っていくために作成されました。

皆さんどんどん活用してくださいね!!

携帯サイトはこちら▶



あとがきにかえて

平成16年3月/大学・総合政策学部卒
東北文化学園大学 教務部教務課勤務

同窓会理事 橋間 亮



このあとがきを書くとき決まったときは、中学生時分に文集委員になったときの心境を思い出してしまいました。

そんな私は今年で、晴れて30歳を迎えます。同じく、私の同

期生も同じ年を迎えているわけですが、なんとなくこの年になってしまったかなと思います。

同期の皆さんも同じ気持ちでしょうか? 充実している毎日をお過ごしでしょうか? おそらく後者だと思いますが。

本当に、ここまでいろいろな人に支えられてきたんだと実感しています。

私は今、縁があつて東北文化学園大学に勤務しております。

今年は震災がありましたが、正直、あたりまえの生活がこれほど幸せなことだと感じた年はありませんでした。

これからも感謝の気持ちを忘れずにしたいと思いますね。